



## 新任医師紹介

6~7月に新しく採用になった医師を紹介します。

**第二麻酔科部長**

まつだ たかし  
**松田 高志** (R2.6.1)

6月に赴任しました松田高志と申します。心臓血管麻酔を中心とした周術期管理が専門です。手術麻酔管理や集中治療領域で尽力いたします。よろしくお願ひ申し上げます。

**第二小児科医師**

かじ さらさ  
**加地 更紗** (R2.7.1)

鳥取大学出身です。小児科医として日々、知識と経験を着実に積み重ね成長して参りたいと思います。お世話になることが多いことなどと存じますが、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

**眼科医師**

まなべ かおる  
**真鍋 薫** (R2.7.1)

6年目の真鍋です。大学に3年勤務し7月より異動となりました。大学では涙道の専門外来をさせていただいており、緑内障専門の教授の下、指導いただいておりました。よろしくお願ひいたします。

### 行事案内

是非、ご参加ください

**第14回地域医療従事者スキルアップセミナー**

11月14日(土) 松江赤十字病院



退職者

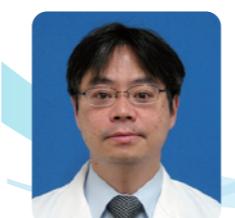
- 令和2年6月30日付  
第二小児科医師 秋好瑞希
- 令和2年7月31日付  
病理診断科副部長 高橋卓也

松江赤十字病院 地域医療連携課  
TEL 0852-32-7813 FAX 0852-27-9261

# れんけいだより

vol.46 2020年8月号

## 松江赤十字病院 整形外科の紹介



整形外科部長  
**熊橋 伸之**

ことを痛感するとともにその重責に身の引き締まる思いです。

現在当科は6人の整形外科医が在籍しており、副部長の片山先生、喜井先生を中心に日々診療に取り組んでおります。今後も松江赤十字病院整形外科の伝統を守り更なる発展を目指して、微力ではありますが、今まで学んできた経験を最大限に活かし、6人力を合わせて松江地区中心の医療に力を尽くせたらと考えております。さらに臨床のみならず、当院は研修指定病院ですので研修医の教育と指導、ならびに研究学会発表においても、同様に取り組んでいきたいと考えております。

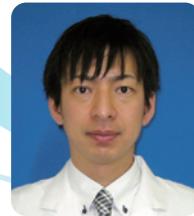
皆様初めまして。岩佐潤二先生の後任として、本年4月から松江赤十字病院整形外科部長に着任いたしました熊橋伸之と申します。以下簡単ではありますが、自己紹介ならびに今後の抱負について述べさせて頂きます。

本病院赴任前は、島根大学医学部附属病院で13年間、膝関節を中心に臨床と基礎研究に携わってまいりました。臨床ではスポーツ整形外科（靭帯損傷、半月板損傷）や重度の変形性膝関節症に対して人工膝関節を中心に行なってきました。また基礎研究においては、軟骨再生や変形性膝関節症の疼痛機序についての研究を行い、基礎研究にとどまらずいかに臨床に活かすかを考えて研究を行なっていました。

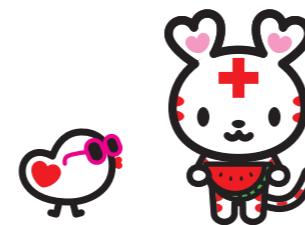
当院に赴任し約4ヵ月が過ぎましたが、当院は松江市の急性期病院でありますので骨折を中心とした救急外傷が多いですが、それに加えて慢性疾患である脊椎疾患や変形性関節症性疾患も含め幅広い年齢層の患者様が来られています。また年間約800例の手術を行なっており、改めて東部地区の重要な基幹病院である

最後になりますが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い整形外科の医療も手術制限があった時期もあり、患者様に満足のいく治療ができない可能性があります。終息の見えない本感染拡大に伴う医療危機を取りながら、さらに島根県東部地区の医療機関の皆様ともより協力し、患者様が治療内容に満足できるように医療内容の充実、ならびに取り巻く環境の整備に努めたいと考えております。開業医の先生方にもいろいろとお願いすることが多いとは思いますが、今後とも引き続き御指導の程何卒よろしくお願い申し上げます。

## 救急総合診療科部の紹介



救急総合診療科部長  
田邊 翔太



今年4月から救急総合診療科の部長を拝命しました田邊翔太と申します。自治医科大学卒業後に島根県立中央病院、隠岐病院、邑智病院などで勤務し、総合診療・救急を専門としています。2018年から2年間、神奈川県の聖マリアンナ医科大学を拠点に国内外で集中治療を学び、2020年から島根県に帰ってまいりました。

救急総合診療科の業務としては、専門領域を超えて入院が必要な患者さんを診断・治療していくことが主となります。多発外傷、敗血症性ショック、重症呼吸不全、中毒、体温異常、心肺停止蘇生後など救急領域の重症疾患はもちろん、複数の専門領域にわたる急性疾患をもつ患者さんについても入院管理をしていきたいと考えております。

超高齢化社会を迎える島根においては、単一疾患で説明のつく「オッカムの剃刀」ではなく、複数疾患を同時に抱えた「ヒッカムの格言」的な患者さんが



増加しているのは間違ひありません。このような患者さんに対し、急性期から退院・介護調整まで総合的に関わっていくことが救急総合診療科の役割と考えております。もちろん、治療については各専門家と協議・協力しながら進めてまいります。また、退院に際しては医師会の先生方に継続治療をお願いすることも多いかと思います。

皆様の外来や施設において、疾患は確定しないが入院は必要そう、とにかく重症という方などいらっしゃいましたら、いつでも当科にご紹介ください。

現在は私一人だけの診療科となりますが、今秋から診療看護師(NP)を1名加え、来年度からは医師の増員も予定しています。県都であるこの松江圏域で他県に誇れる救急医療体制を構築していくこと、目標に日々の診療を積み重ねていきたいと考えております。今後ともよろしくお願い致します。



## まめネットWEB 退院前カンファレンスを行いました

医療社会事業課 福田 達恵

当院では、隠岐圏域の病院・診療所との間でまめネットWEB会議サービスの利用ができるようになりました。そこでこのサービスを利用して、隠岐病院へ転院される患者様の退院前カンファレンスを行うことにしました。

患者様は隠岐在住で、奥様と二人暮らしの方です。当院には尿路変更術を受けるために入院され、術後には奥様へもストーマ装具交換のための指導が必要な状況でした。しかし、新型コロナの影響もあり隠岐からの移動にも制限があるため、当院で指導を受けていただくことが難しい状況でした。そこで、隠岐病院で奥様の指導を引き継いでいただき、在宅療養へつないでいくことにしました。事前に隠岐病院と調整を行い、診療情報提供書、看護情報提供書で情報提供を行い、6月18日に退院前カンファレンスを実施しました。

WEBカンファレンスでは、当院から患者様の補足説明をし、隠岐病院からの質問に答える形で進めできました。患者様にも参加していただいたので、患者様の状態も確認していただくことができました。看護師からは使用しているストーマ装具や交換方法、皮膚ケアの実際について、カメラを通して具体的に説明してもらいました。カメラを通して直接見ていただくことができたので、隠岐病院からも「わかりやすかった」と評価していただけました。事前に情報提供をしていたこともあり、話し合いも円滑に進み、予定時間内で終了することができました。しかし、カメラを移動させて撮影する際映像が途切れたり、会場設営に不備があったりと課題もありましたので、今後改善できるよう検討していきたいと考えています。

